

# 雲南圏域(農業)プロジェクト全体評価及び成果指標の達成状況(平成24年度)

達成状況判断基準: 100%以上→「達成」、80%以上100%未満→「概ね達成」、80%未満→「未達成」

NO	プロジェクト	全体評価(総括・検証)	成果指標と達成率					達成状況
			項目名	H24目標	H24実績	単位	達成率	
雲南-1	島根の米をリードする雲南の米づくりプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別栽培米の推進に向けて、栽培履歴調査や集落営農組織等への働きかなどに取り組んだ結果、エコ米栽培面積については集落営農法人の取り組み面積が約44ha伸び、全体の70%を占めるなど、既存取り組み者の面積拡大と「つや姫」の取り組みにより目標を達成した。</li> <li>化学農薬成分使用回数について、稲作ごよみで10成分を基準として栽培計画を立案し、実態調査を実施したところ、約2/3の生産者が8回以下となった。</li> <li>商談会、PR活動等の実施や、カントリーエレベータの今摺米販売、利用料の見直しなどを展開。新企画商品「田植え雛子」をつくり、神話博しまね等でPR活動を開始した。</li> <li>JA加工所の精米袋販売量は継続した店頭販促活動などにより順調に伸び、平成26年度目標を上回る実績となった。</li> </ul>	特別栽培米(エコロジー米)の拡大	460	468	ha	102%	達成
			雲南独自基準の設定(化学農薬成分使用回数)	10	10	回	100%	達成
			JA加工所の精米袋販売量	660	710	t	108%	達成
雲南-2	和牛振興(三位一体で奥出雲和牛の再構築)プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>飼料価格の高騰、枝肉価格の低迷等による経営環境の悪化等から、JA雲南の肥育センター集約化の方針を受け、新たな経営体による肥育事業の継続を検討。地域一貫体制維持のため、繁殖対策により重点的に取組む方針へ転換することとなった。</li> <li>県内外からの優良牛導入確保対策が功を奏し、第10回長崎全共では約半数の県代表の座を獲得したが、目標成績には達しなかった。</li> <li>県有種雄牛を活用できる優れた繁殖雌牛の確保と、指定交配の推進により、能力向上対策に取り組む。</li> <li>繁殖の低コスト生産対策と並行して、集落畜産のモデルづくりに取り組む。新たに1法人で取り組みが開始された。</li> <li>肥育対策では、肥育成績低下を受けたチーム指導の継続等により、年々肥育成績が向上し、県平均並となった他、各種枝肉共進会で上位入賞を果たした。</li> <li>奥出雲和牛の出荷頭数は目標を上回る見込みだが、これまで関西圏で順調に販売を伸ばしてきた中で、JA肥育センターの規模縮小から販路の見直しが必要となっている。</li> </ul>	奥出雲和牛出荷頭数	550	577	頭	105%	達成
			うち新たな経営体が占める出荷頭数	0	0	頭	—	—
			奥出雲和牛肉販売金額	468	435	百万円	93%	概ね達成
雲南-3	雲南農業を支える産直と園芸産地の強化プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>園芸品目JA取扱額は目標の103%。うち産直販売額は目標の101%。</li> <li>産直協議会会員数については2,811名(103%)となり目標を達成。</li> <li>吉田掛合高速道路パーキング産直市が開設し、研修会等により直売所経営者や販売担当者の販売スキルの向上が図られた。</li> <li>産直協議会会員の拡大に資する栽培講習会やDVDの製作も行い会員が拡大した。</li> <li>地産都商では販売員を確保し、他店舗にも拡大した。今後、他のJAと連携した拡大が課題。</li> </ul>	園芸品目JA取扱額	1,182	1,219	百万円	103%	達成
			うち産直販売額	675	682	百万円	101%	達成
			産直協議会会員数	2,730	2,811	人	103%	達成
雲南-4	横田国営開発農地再生プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>耕作放棄地解消のため所有者と借入希望者のマッチングや担い手への農地集積を実施するとともに、農地の再整備や防護柵等鳥獣害対策の実施により、農地活用面積は増加し、目標達成。</li> <li>農業生産法人、農業参入企業への農地集積面積も目標以上の達成。</li> <li>エゴマ、サツマイモ、ぶどう、トルコギキョウ、キャベツ、奥出雲農園のトマト等の栽培指導や、流通業者とのマッチング実施。</li> <li>食品加工業者と連携したイチヨウイモの栽培試験や、ソバの新品種について参入企業による試作を実施。また、契約的栽培の充実強化のため、小売り業者への情報発信や商談を実施。</li> <li>ソバ、エゴマ等の土地利用型作物の機械化体系の確立、作業受託の促進等により、農業参入企業が行う地域との労働力補充・連携の実施面積も目標以上の達成。</li> </ul>	農地活用面積(作付可能面積271haの内数)	227	232	ha	102%	達成
			農業生産法人、参入企業への農地集積面積	70	72.1	ha	103%	達成
			参入企業販売額合計	60	123	百万円	205%	達成
			作業受委託等、参入企業が行う地域との労働力補充・連携の実施面積	25	40.0	ha	160%	達成